

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	カッポウカクシン カンサイイヨウカク ケン学校法人 関西医療学園									
フリガナ大学の名称	カンサイイヨウカクダクダクイ 関西医療大学大学院 (Graduate School of Kansai University of Health Sciences)									
大学本部の位置	大阪府泉南郡熊取町若葉2丁目11番1号									
大学の目的	本大学院は、保健医療に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、国民保健の進展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	博士後期課程は、修士課程で修得した資質と能力に基づき、保健医療分野の主導的専門職としての高い倫理観のもとで主体的に研究活動を行い、保健医療の各分野を牽引するリーダーシップと後進の指導を担える研究実践力を養うことを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	保健医療学研究科 (Graduate School of Health Sciences) 保健医療学専攻 (Department of Health Sciences) 博士後期課程 (Doctoral Course) 計	3年	3人	-	9人	博士 (保健医療学) 【Ph. D. in Health Sciences】	令和6年4月第1年次	大阪府泉南郡熊取町若葉2丁目11番地1号	【基礎となる学部等】 保健医療学部 ・はり灸・スポーツトレーナー学科 ・理学療法学科 ・作業療法学科 ・臨床検査学科 保健医療学研究科 ・保健医療学専攻 (修士課程) 14条特例の実施	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	20単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任	任等	
	新設分	保健医療学研究科 (博士後期課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	教員等	
		計	10人 (10)	3人 (3)	1人 (1)	0人 (0)	14人 (14)	0人 (0)	0人 (0)	
	既設分	保健医療学研究科 (修士課程)	27人 (27)	5人 (5)	1人 (1)	1人 (1)	34人 (34)	0人 (0)	18人 (18)	
		計	27人 (27)	5人 (5)	1人 (1)	1人 (1)	34人 (34)	0人 (0)	-	
合計		29人 (29)	6人 (6)	1人 (1)	1人 (1)	37人 (37)	0人 (0)	-		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		31人 (31)		18人 (18)		49人 (49)			
	技術職員		8人 (8)		17人 (17)		25人 (25)			
	図書館専門職員		2人 (2)		1人 (1)		3人 (3)			
	その他の職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)			
計		41人 (41)		36人 (36)		77人 (77)				
大学全体										

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	17,340.45m ²	— m ²	— m ²	17,340.45m ²				
	運 動 場 用 地	6,379.70m ²	— m ²	— m ²	6,379.70m ²				
	小 計	23,720.15m ²	— m ²	— m ²	23,720.15m ²				
	そ の 他	25,294.85m ²	— m ²	— m ²	25,294.85m ²				
合 計	49,015.00m ²	— m ²	— m ²	49,015.00m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		23,629.44m ² (23,629.44m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	23,629.44m ² (23,629.44m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 情報処理学習施設と語学 学習施設は共用			
	30室	4室	27室	1室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程		13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	保健医療学研究科 保健医療学専攻 (博士後期課程)	61,701 [11,895] (59,639 [11,826])	113 [33] (113 [33])	11 [11] (11 [11])	1,614 (1,614)	()	()		
	計	61,701 [11,895] (59,639 [11,826])	113 [33] (113 [33])	11 [11] (11 [11])	1,614 (1,614)	()	()		
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 図書館の面積は、ラーニング コモンズ 309.20m ² を含む。 図書館の閲覧座席数はラーニ ングコモンズ132席を含む。		
		1,208.90 m ²	298 席		63,333 冊				
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1426.03m ²	—						
経 費 の 積 及 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		626千円	626千円	626千円	—	—	—	
	共同研究費等		23,000千円	23,000千円	23,000千円	—	—	—	
	図書購入費	100千円	70千円	50千円	50千円	—	—	—	
	設備購入費	2,581千円	660千円	660千円	330千円	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	900千円	600千円	600千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料、資産運用収入等による							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	関西医療大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率 倍	開 設 年 度	所 在 地
	保健医療学研究科 保健医療学専攻	2 年	9 人	— 人	18 人	修士 (保健医療学)	1.05	平成 23年度	大阪府泉南郡熊取町 若葉2丁目11番1号
	保健医療学部 はり灸・スポーツ トレーナー学科	4	50	—	200	学士 (鍼灸学)	0.93 0.84	平成 15年度	
	理学療法学科	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	1.04	平成 19年度	
	作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.85	平成 30年度	
	ヘルスプロモーション 整復学科	4	40	—	160	学士 (保健医療学)	0.72	平成 20年度	
	臨床検査学科	4	60	—	240	学士 (保健衛生学)	1.08	平成 25年度	
保健看護学部 保健看護学科	4	90	—	360	学士 (看護学)	1.11 1.11	平成 21年度		

<p>附属施設の概要</p>	<p>附属診療所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 既設学部<small>の臨床実習</small>および大学院保健医療学研究科<small>の臨床実習</small>ならびに臨床研究の施設<small>に供するとともに</small>、地域社会に貢献する医療機関としての役割を果たす。 2. 所在地 大阪府泉南郡熊取町若葉2丁目11番1号 3. 設置年月 平成15年4月 4. 規模等 土地 1,303.41㎡、建物 1,868.53㎡ 5. 診療部門 <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般診療…内科、神経内科、整形外科、心療内科・精神科 総合診療科（整形・漢方）、リハビリテーション科 通所リハビリテーション、禁煙外来 2) 鍼灸治療…附属鍼灸治療所 <p>附属接骨院</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 保健医療学部ヘルスプロモーション整復学科<small>の臨床実習</small>の施設<small>に供するとともに</small>、地域社会に貢献する医療機関としての役割を果たす。 2. 所在地 大阪府泉南郡熊取町若葉2丁目10番53号 3. 設置年月 平成23年2月 4. 規模等 土地 122.84㎡、建物 180.55㎡ 5. 施術内容 骨折、脱臼、捻挫、打撲など 	
----------------	---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」, 「新設学部等の目的」, 「新設学部等の概要」, 「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場は、「教育課程」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」, 「校地等」, 「校舎」, 「教室等」, 「専任教員研究」, 「図書・設備」, 「図書館」, 「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人 関西医療学園 設置認可等に関わる組織の移行表

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
令和5年度				令和6年度				変更の事由
関西医療大学				関西医療大学				
保健医療学部				保健医療学部				
はり灸・スポーツトレーナー学科	50	-	200	はり灸・スポーツトレーナー学科	50	-	200	
理学療法学科	60	-	240	理学療法学科	60	-	240	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
ヘルスプロモーション整復学科	40	-	160	ヘルスプロモーション整復学科	40	-	160	
臨床検査学科	60	-	240	臨床検査学科	60	-	240	
保健看護学部				保健看護学部				
保健看護学科	90	-	360	保健看護学科	90	-	360	
計	340	-	1,360	計	340	-	1,360	
関西医療大学大学院				関西医療大学大学院				
保健医療学研究科				保健医療学研究科				
保健医療学専攻(M)	9	-	18	保健医療学専攻(M)	9	-	18	
				保健医療学専攻(D)	3	-	9	課程変更(認可申請)
計	9	-	18	計	12	-	27	
関西医療学園専門学校				関西医療学園専門学校				
東洋医療学科	30	-	90	東洋医療学科	30	-	90	
東洋医療鍼灸学科	30	-	90	東洋医療鍼灸学科	30	-	90	
柔道整復学科	60	-	180	柔道整復学科	60	-	180	
理学療法学科	40	-	120	理学療法学科	40	-	120	
歯科衛生学科	50	-	150	歯科衛生学科	50	-	150	
計	210	-	630	計	210	-	630	

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	保健医療研究方法特論Ⅰ	1前	2			○			4					【オムニバス】
	保健医療研究方法特論Ⅱ	1前	2			○			4					【オムニバス】
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			6	0	0	0	0	—
専門教育科目	保健医療科学基盤講義Ⅰ	1後		2		○			1	1				【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】 【オムニバス・共同（一部）】
	保健医療科学基盤講義Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	保健医療科学基盤講義Ⅲ	1後		2		○				1				
	保健医療科学実践演習Ⅰ	1後		2			○		1	1				
	保健医療科学実践演習Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	保健医療科学実践演習Ⅲ	1後		2			○			1				
	保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ	1後		2		○			1		1			
	保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ	1後		2		○			1					
	保健医療技術開発学基盤講義Ⅲ	1後		2		○			2					
	保健医療技術開発学実践演習Ⅰ	1後		2			○		1		1			
	保健医療技術開発学実践演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	保健医療技術開発学実践演習Ⅲ	1後		2			○		2					
	保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ	1後		2			○		1		1			
	保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ	1後		2			○		2					
小計（15科目）	—	—	0	30	0	—			6	3	1	0	0	—
特別研究科目	特別研究Ⅰ	1通	4				○		10	3	1			
	特別研究Ⅱ	2通	4				○		10	3	1			
	特別研究Ⅲ	3通	4				○		10	3	1			
	小計（3科目）	—	12	0	0	—			10	3	1	0	0	—
合計（20科目）			—	16	30	0	—		10	3	1	0	0	—
学位又は称号	博士（保健医療学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（リハビリテーション関係）、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
【修了要件】 本課程に3年以上を在籍し、共通教育科目に配当された2科目4単位（必修）、専門教育科目より2科目4単位以上（選択）、特別研究科目に配当された3科目12単位（必修）、合計20単位以上を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 「共通教育科目」：必修科目となる2科目いずれも履修する。 「専門教育科目」：①保健医療科学基盤講義Ⅰ、保健医療科学基盤講義Ⅱ、保健医療科学基盤講義Ⅲより1科目（2単位）及び保健医療科学実践演習Ⅰ、保健医療科学実践演習Ⅱ、保健医療科学実践演習Ⅲより1科目（2単位）の計2科目4単位を履修する。②保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ、保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ、保健医療技術開発学基盤講義Ⅲより1科目（2単位）及び保健医療技術開発学実践演習Ⅰ、保健医療技術開発学実践演習Ⅱ、保健医療技術開発学実践演習Ⅲより1科目（2単位）の計2科目4単位を履修する。③保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ、保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ、保健医療技術開発学基盤講義Ⅲより1科目（2単位）、保健医療技術開発学実践演習Ⅰ、保健医療技術開発学実践演習Ⅱ、保健医療技術開発学実践演習Ⅲより1科目（2単位）及び保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ、保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ、保健医療技術開発学臨床演習Ⅲより1科目（2単位）の計3科目計6単位を履修する。 「特別研究科目」：特別研究Ⅰ（1年次）、特別研究Ⅱ（2年次）及び特別研究Ⅲ（3年次）をすべて履修する。							1 学年の学期区分		2期					
							1 学期の授業期間		15週					
							1 時限の授業時間		90分					

「補正前」

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
（保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	保健医療研究方法特論Ⅰ	1前	2			○			4					【オムニバス】
	保健医療研究方法特論Ⅱ	1前	2			○			4					【オムニバス】
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			6	0	0	0	0	—
専門教育科目	保健医療科学基盤講義	1後		2		○			2	3				【共同】
	保健医療科学実践演習	1後		2			○		2	3				【共同】
	保健医療技術開発学基盤講義	1後		2		○			4		1			【共同】
	保健医療技術開発学実践演習	1後		2			○		4		1			【共同】
	保健医療技術開発学臨床演習	1後		2			○		4		1			【共同】
小計（5科目）	—	0	10	0	—			6	3	1	0	0	—	
特別研究科目	特別研究Ⅰ	1通	4				○		5	2				
	特別研究Ⅱ	2通	4				○		5	2				
	特別研究Ⅲ	3通	4				○		5	2				
	小計（3科目）	—	12	0	0	—			5	2	0	0	0	—
合計（10科目）		—	16	10	0	—			9	3	1	0	0	—
学位又は称号	博士（保健医療学）		学位又は学科の分野					保健衛生学関係（リハビリテーション関係）、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
【修了要件】 本課程に3年以上を在籍し、共通教育科目に配当された2科目4単位（必修）、専門教育科目より2科目4単位以上（選択）、特別研究科目に配当された3科目12単位（必修）、合計20単位以上を修得すると共に、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 「共通教育科目」：必修科目となる2科目いずれも履修する。 「専門教育科目」：①保健医療科学基盤講義（2単位）及び保健医療科学実践演習（2単位）の計4単位を履修する。②保健医療技術開発学基盤講義（2単位）及び保健医療技術開発学実践演習（2単位）の計4単位を履修する。③保健医療技術開発学基盤講義（2単位）、保健医療技術開発学実践演習（2単位）及び保健医療技術開発学臨床演習（2単位）の計6単位を履修する。 「特別研究科目」：特別研究Ⅰ（1年次）、特別研究Ⅱ（2年次）及び特別研究Ⅲ（3年次）をすべて履修する。								1 学年の学期区分			2期			
								1 学期の授業期間			15週			
								1 時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健医療学研究科保健医療学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	保健医療学概論	1前	2			○									兼1
	医療倫理学概論	1後	2			○									兼1
	疫学・保健統計学概論	1前	2			○			2						兼1 オムニバス
専門教育科目 基礎領域	機能形態学	1後		2		○			1						オムニバス
	生体情報学	1前		2		○			1						
	病態情報学	1後		2		○			1						
	内科系病態学Ⅰ	1前		2		○			1						
	内科系病態学Ⅱ	1後		2		○			2						
	外科系病態学	1前		2		○			1						
	高次神経病態学	1後		2		○			1						
	東洋医学	1前		2		○			1						
	補充・代替医療学	1後		2		○			1						
	教育学概論	2前		2		○									
	教育学特論	2前		2		○									
小計（14科目）	—		6	22	0	—			9	0	0	0	0	兼1 兼4	
専門教育科目 専門領域	臨床鍼灸学研究計画法	1後		2		○			1	1					オムニバス
	臨床鍼灸学研究方法論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	臨床鍼灸学特論講義	2前		2		○			2	1					オムニバス
	臨床鍼灸学特論演習	2前		2			○								兼1
	臨床鍼灸学実習	1後		2				○	3	1					兼1 共同
	臨床身体機能学研究計画法	1後		2		○			2						共同
	臨床身体機能学研究方法論	1後		2		○			2						共同
	臨床身体機能学特論講義	2前		2		○			2						共同
	臨床身体機能学特論演習	2前		2			○		2						共同
	臨床身体機能学実習	1後		2				○	2						共同
	医科学研究計画法	1後		2		○			4	1					オムニバス
	医科学研究方法論	1後		2		○			4	1					オムニバス
	医科学特論講義	2前		2		○			3	1					オムニバス
	医科学特論演習Ⅰ	2前		2			○		4	1					オムニバス
医科学特論演習Ⅱ	2前		2			○		4	1					オムニバス	
小計（15科目）	—		0	30	0	—			9	4	0	0	0	兼1	
特別研究科目	特別研究	1～2通	6					○	30	5					
	小計（1科目）	—	6	0	0	—			30	5	0	0	0		
合計（30科目）		—	6	52	0	—			30	5	0	0	0	兼5	
学位又は称号		修士（保健医療学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>修了要件</p> <p>2年以上在学し、32単位以上の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>履修方法</p> <p>共通教育科目に配当された3科目6単位を必修。 専門教育科目基礎領域から10単位以上を選択。 専門教育科目専門領域から10単位以上を選択。 特別研究科目6単位を必修。</p>								1学年の学期区分		2学期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 鍼灸学科 (はり灸・スポーツトレーナー学科))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	東洋医療の基礎・導入教育	1前	1				○		2		3	1			共同
	科学的思考の基盤	科学の基礎	1前		1		○								兼2
		統計学の基礎	1前		1		○			1					
		生命のしくみ	1後		2		○								兼1
		物質と自然のしくみ	1後		2		○								兼1
		生命の化学	1後		2		○								兼1
		情報科学	2後		2		○								兼1
		小計 (6科目)		0	10	0				2	1	3	1	0	兼4
		人間と生活	生命倫理	1後	2		○			1					
			日本国憲法 (法の基礎知識)	1後		2		○							兼1
			心理学	1前		2		○							兼1
			スポーツと健康	1前		2		○							兼1
			生涯スポーツ I	1前	1				○						兼2 共同
			生涯スポーツ II	1後		1			○						兼3 共同
			東洋思想	1後		2		○							兼1
			社会学	2前		2		○							兼1
			社会福祉論	2後		2		○							兼1
			教育学	2前		2		○							兼1
		小計 (10科目)		3	15	0				1	0	0	0	0	兼9
		言語とコミュニケーション	英語表現法 I	1前	1			○							兼1
			英語表現法 II	1後	1			○							兼1
			国語表現法	1前		1		○							兼1
			コミュニケーション学	1前	1			○							兼1
			英語表現法 III	2前	1			○			1				
			英語表現法 IV	2後		1		○			1				
			中国語 I	2前		1		○							兼1
			中国語 II	2後		1		○							兼1
		医療英語	3前		1		○							兼1	
	小計 (9科目)		4	5	0				0	2	0	0	0	兼6	

専門基礎	人体の構造Ⅰ	1前	2			○				1									
	人体の構造Ⅱ	1後	2			○				1									
	人体の構造実習Ⅰ	1前	1					○		1									
	人体の構造実習Ⅱ	1後	1					○			1								
	人体の機能Ⅰ	1前	2			○											兼2	オムニバス	
	人体の機能Ⅱ	1後	2			○											兼1		
	運動生理学	1後		2			○										兼1		
	病因・病態学Ⅰ	2前	1				○										兼1		
	病因・病態学Ⅱ	2後	1				○										兼1		
	臨床医学Ⅰ（医学総論）	2前	1				○			1									
	臨床医学Ⅱ（外科系）	2後	1				○			1									
	リハビリテーション概論	2後	1				○										兼2	オムニバス	
	衛生・公衆衛生学Ⅰ	2前	1				○										兼1		
	衛生・公衆衛生学Ⅱ	2後	1				○										兼1		
	疼痛動作の運動学	2後	1				○				1								
	加齢医学	2後		1			○										兼1		
	食品栄養学	2前		1			○										兼1		
	臨床心理学	2前		2			○										兼1		
	運動器の解剖と機能	2前		1			○										兼1		
	予防とコンディショニングⅠ	2後		1			○				2								
	スポーツ心理学	2前		1			○										兼1		
	トレーニング科学	2前		1			○										兼1		
	バイオメカニクス	2後		1			○										兼1		
	スポーツ医学Ⅰ	2後		1			○			1									
	スポーツリハビリテーションⅠ	2後		1			○										兼1		
	臨床医学Ⅲ（内科系1）	3前	1				○										兼1		
	臨床医学Ⅳ（内科系2）	3前	1				○			1									
	リハビリテーション各論	3前	1				○										兼2	オムニバス	
	鍼灸のリスクマネジメント	3後	1				○				1								
	医事法規	3後	2				○										兼1		
	予防とコンディショニングⅡ	3前		2			○				2								
	スポーツ医学Ⅱ	3前		1			○				1						兼1	オムニバス	
	スポーツ医学Ⅲ	3前		1			○			1							兼1	オムニバス	
	スポーツリハビリテーションⅡ	3前		2			○										兼2	オムニバス	
	スポーツと栄養	3前		1			○										兼1		
小計35科目			24	20	0				2	1	5	0	0			兼20			

専 門 教 育 科 目	東洋医学系	東洋医学総論Ⅰ	1前	1			○				1	1			オムニバス
		東洋医学総論Ⅱ	1後	2			○				1	1			オムニバス
		鍼灸基礎実習Ⅰ（鍼基礎）	1前	1				○	1	1					共同
		鍼灸基礎実習Ⅱ（灸基礎）	1後	2				○	1	1					共同
		経穴学Ⅰ（経絡の流注）	1前	1				○			1				
		経穴学Ⅱ（要穴1）	1後	1				○	1			1			共同
		鍼灸理論Ⅰ（基礎）	1後	1				○		1					
		鍼灸基礎実習Ⅲ（鍼灸応用1）	2前	2				○			2				共同
		鍼灸基礎実習Ⅳ（鍼灸応用2）	2後	2				○			2				共同
		経穴学Ⅲ（要穴2）	2前	1				○	1			1			共同
		経穴学Ⅳ（要穴以外の経穴）	2後	1				○			1	1			共同
		鍼灸理論Ⅱ（応用）	2前	1				○		1					
		東洋医学各論Ⅰ（四診）	2前	1				○	1						
		東洋医学各論Ⅱ（基礎弁証）	2後	1				○	1						
		鍼灸理学併用療法実習Ⅰ	2前	1				○			1				兼1 共同
		鍼灸理学併用療法実習Ⅱ	2後	1				○			1				兼1 共同
		東洋医学各論Ⅲ（応用弁証）	3前	1				○	1						
		東洋医学各論Ⅳ（治療理論）	3後	1				○	1						
		鍼灸治療実習Ⅰ（運動器系）	3前	2				○			2				共同
		鍼灸治療実習Ⅱ（神経系）	3後	2				○	1	1					共同
		鍼灸診察法Ⅰ	3前	2				○	1		1				共同
		鍼灸診察法Ⅱ	3後	2				○	1		1				共同
		鍼灸特殊治療法	3後		2			○		1	1	1			兼2 オムニバス
		伝統鍼灸学Ⅰ（澤田流）	3後		2			○							兼1
		トリガーポイント概論	3後		2			○			1				
		経穴・臓象学	3後		2			○							兼1
		運動器の触察法	3前		1			○							兼1
		スポーツ鍼灸治療Ⅰ	3後		1			○							兼1
		鍼灸治療実習Ⅲ（内科系）	4前	2				○			1	1			共同
		鍼灸臨床実習Ⅰ	4通	3				○	5		3	2			兼4 共同
		鍼灸臨床実習Ⅱ	4通	1				○	3	1	4	3			兼2 共同
		伝統鍼灸学Ⅱ（経絡治療）	4前		2			○							兼1
		スポーツ鍼灸特論	4後		2			○			2				オムニバス
		レディース鍼灸	4後		2			○	1			2			オムニバス
		鍼灸美容	4後		2			○	1						
		現代鍼灸学	4前		2			○		1		1			オムニバス
		トリガーポイント鍼療法Ⅰ	4前		1			○							兼1
		トリガーポイント鍼療法Ⅱ	4後		1			○							兼1
		スポーツ鍼灸治療Ⅱ	4前		1			○							兼1
		臓腑経脈治療Ⅰ	4前		1			○							兼1
		臓腑経脈治療Ⅱ	4後		1			○							兼1
		中国手技療法	4後		1			○	1						
	小計42科目			36	26	0		5	1	7	3	0		兼14	

総合領域	医学概論	1前	2		○			1			1			オムニバス	
	アスレティックトレーナー概論Ⅰ	1前		1	○				1						
	アスレティックトレーナー概論Ⅱ	1後		1	○				1						
	スポーツ社会学	1前		1	○				1						
	スポーツコーチング論	1前		1	○				1						
	スポーツトレーニング論Ⅰ	1前		1	○									兼1	
	スポーツトレーニング論Ⅱ	1後		1	○									兼1	
	トレーナー見学実習	1通		2		○		1	3					兼4	共同
	アスレティックトレーナーの役割	2前		2		○		1	3					兼3	オムニバス
	健康運動実習Ⅰ	2前		1		○								兼1	
	健康運動実習Ⅱ	2後		1		○								兼1	
	リハビリテーションプログラミング実習	2通		2		○		1	3					兼4	共同
	総合演習Ⅰ	3後	1			○		1	1	3	1			兼1	オムニバス
	和漢診療学	3後		1		○								兼1	
	健康管理学	3前		2		○								兼1	
	健康づくり概論	3前		2		○								兼1	
	救急処置実習	3前		1			○							兼5	オムニバス
	フィットネス実習Ⅰ	3前		1		○								兼1	
	スポーツ現場実習	3前		2			○	1	3					兼4	共同
	スポーツリハビリテーション実習	3後		2			○	1	3					兼4	共同
	障がい者スポーツ論	3後		1		○								兼1	
	総合演習Ⅱ	4通	3				○	6	2	7	3			兼3	オムニバス
	総合ゼミ	4通	2				○	6	2	7	2				共同
	アロマセラピー	4後		1		○					1				
	トレーナー総合実習	4前		2			○	1	3					兼4	共同
	アスレティックトレーナー総合演習	4後		1			○		3					兼2	共同
	インターン実習	4後		1			○	2	4						共同
小計27科目			8	31	0		6	2	7	3	0		兼15		
小計(113科目)				76	107	0		6	2	7	3	0	兼56		
学位又は称号		学士(鍼灸学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
卒業要件							1学年の学期区分			2学期					
4年以上にわたり128単位以上の単位を取得							1学期の授業期間			15週					
履修方法							1学期の授業時間			90分					
科学的思考の基盤から6単位以上を選択。人間と生活から必修3単位+選択7単位以上を選択。言語とコミュニケーションから、必修4単位+選択3単位以上を選択。専門教育科目の専門基礎から必修24単位+選択7単位以上を選択、東洋医学系から必修36単位+選択6単位以上を選択、総合領域から必修8単位+選択6単位以上を選択。上記以外で、専門教育科目の選択科目を23単位以上を選択。(履修科目の登録の上限:49単位(年間))							教育課程の変更について 平成23年12月届け出予定								

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 理学療法学科)		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
科目区分				必	選	自	講	演	実	教	准	講	助	助		
				修	択	由	義	習	験・実							
		東洋医療の基礎・導入教育	1前	1				○		4	2		4		兼1	共同
総合教育科目	科学的思考の基盤	科学の基礎	1前		1		○								兼2	オムニバス
		生命のしくみ	1後		2		○								兼1	
		生命の化学	1前		2		○								兼1	
		統計学の基礎	1後		1		○								兼1	
		物質と自然のしくみ	1前		2		○								兼1	
		情報科学	1後		2		○								兼1	
		小計(6科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼5
	人間と生活	生命倫理	1後	2			○								兼1	
		日本国憲法(法の基礎知識)	1前		2		○								兼1	
		心理学	1前		2		○								兼1	
		スポーツと健康	1前		2		○	○							兼1	
		生涯スポーツⅠ	1前	1					○						兼2	共同
		生涯スポーツⅡ	1後		1				○						兼2	共同
		社会学	1後		2		○								兼1	
		社会福祉論	1後		2		○								兼1	
教育学	1前		2		○								兼1			
小計(9科目)		—	3	13	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—	
言語とコミュニケーション	英語表現法Ⅰ	1前	1			○								兼1		
	英語表現法Ⅱ	1後	1			○								兼1		
	英語表現法Ⅲ	2前	1			○								兼1		
	英語表現法Ⅳ	2後		1		○								兼1		
	医療英語	2後		1		○						2		兼1	オムニバス	
	国語表現法	1前		1		○								兼1		
	コミュニケーション学	1前		1		○								兼1		
	手話	1後		1		○								兼3	共同	
小計(8科目)		—	3	5	0	—			0	0	0	2	0	兼5		
人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造Ⅰ	1前	2			○				1						
	人体の構造Ⅱ	1後	1			○				1						
	人体の構造演習	1後	1				○			1						
	人体の機能Ⅰ	1前	2			○								兼1		
	人体の機能Ⅱ	1後	1			○								兼1		
	人体の機能演習	1後	1				○							兼2	共同	
	基礎運動学Ⅰ	1後	1			○						1				
	基礎運動学Ⅱ	2前	1			○				1						
	基礎運動学演習	2前	1				○					1				
	人間発達学	1前	2			○								兼1		
	小計(11科目)		—	13	0	0	—			2	0	0	2	0	兼3	—

専門基礎科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論	1前	2			○											兼1		
		衛生・公衆衛生学Ⅰ	2前	1			○											兼1		
		衛生・公衆衛生学Ⅱ	2後		1		○											兼1		
		病因・病態学Ⅰ	2前	1			○												兼1	
		病因・病態学Ⅱ	2後	1			○												兼1	
		臨床疾患学(内科)	2前	1			○				1								兼1	
		臨床疾患学(外科)	2後	1			○												兼1	
		臨床内科学各論	2後		1		○				1								兼1	オムニバス
		臨床外科学各論	3前		1		○												兼3	オムニバス
		整形外科学	2前	1			○				1								兼3	オムニバス
		神経内科学	2前	1			○					1							兼1	オムニバス
		臨床心理学概論	1前	1			○												兼1	
		精神医学	2前	1			○				1								兼1	
		画像解析学概論	3前	1			○												兼1	
		加齢医学	2後		1		○												兼1	
		薬理学の基礎	2前	1			○				1								兼1	
		免疫学	3前		1		○												兼1	
		栄養学の基礎	2前	1			○												兼1	
		障がいとスポーツ	3前	1			○				1	1								オムニバス
		医療統計	3前	1			○												兼1	
		小計(20科目)	—	16	5	0		—			3	2	0	0	0				兼18	—
	保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	1前	2			○				3								兼3	オムニバス
		保健医療福祉概論	1後	2			○				1									
		小計(2科目)	—	4	0	0		—			3	0	0	0	0				兼3	—
	基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1			○					1								
		運動療法概論	2前	2			○				1									
		運動療法概論演習	2後	1				○			1									
		日常生活活動学	2前	1			○				1			1						オムニバス
		動作分析学	2後	1			○							2						オムニバス
		感染管理学	2後	1			○												兼2	オムニバス
		安全管理学	2後	1			○							1					兼2	オムニバス
		理学療法管理学	4後	2			○							1					兼4	オムニバス
		小計(8科目)	—	10	0	0					2	1	0	2					兼5	
理学療法評価学		評価学総論	1後	2			○					1		2						オムニバス
	評価学演習Ⅰ	2前	1				○				1		2						共同	
	評価学演習Ⅱ	2後	1				○			1	1		1						共同	
	検査測定学Ⅰ	2前	1			○					1		1						オムニバス	
	検査測定学Ⅱ	3前	1			○				1	1		1						オムニバス	
小計(5科目)		6	0	0					2	2	0	3	0	0						
理学療法治療学	骨関節疾患理学療法学Ⅰ	2後	2			○				1			1						オムニバス	
	骨関節疾患理学療法学Ⅱ	3前	2			○				1			1						オムニバス	
	脳血管障害理学療法学Ⅰ	2後	2			○							1							
	脳血管障害理学療法学Ⅱ	3前	2			○				1										
	神経筋疾患理学療法学Ⅰ	3前	1			○							1							
	神経筋疾患理学療法学Ⅱ	3後	1			○							1							
	小児疾患理学療法学Ⅰ	3前	1			○												兼1		
	小児疾患理学療法学Ⅱ	3後	1			○												兼4	オムニバス	
	脊髄損傷理学療法学	3前	1			○				1			1							
	老人理学療法学	3前	1			○				1									兼1	
	内部障害理学療法学	3前	1			○													兼1	
	義肢装具学	2後	1			○							1							
	義肢装具学演習	3前	1				○				1		1						共同	
	物理療法学	2後	1			○							1							
	物理療法学演習	3前	1				○						1							
	総合理学療法学	3後	1			○				2	1		1						兼2	オムニバス
小計(16科目)	—	20	0	0		—			4	2	0	3	0				兼8			

	地域理学療法学	地域理学療法学総論	3後	1			○			1							
		地域理学療法学各論	4後	2			○			1					兼2	オムニバス	
		小計(2科目)	—	3	0	0	—			1	0	0	0	1	兼2		
	臨床実習	理学療法評価実習	3後	7					○	4	2		4				共同
		理学療法臨床実習Ⅰ	4前	6					○	4	2		4				共同
		理学療法臨床実習Ⅱ	4前	7					○	4	2		4				共同
		小計(3科目)	—	20	0	0	—										
	発展科目	東洋医学概論	4後		1			○							兼1		
		東洋医学と理学療法特論	4後	1				○		2	1		2		兼1	オムニバス	
		神経難病理学療法特論	4後	1				○		1	1		1		兼1	オムニバス	
		精神疾患理学療法各論	4後	1				○		1							
		スポーツ理学療法各論	4後	1				○		2	1				兼1	オムニバス	
		基礎ゼミ	1後	2				○		1			1			共同	
		国際リハビリテーション学総論	2後		1			○		1					兼1	オムニバス	
		国際リハビリテーション学各論	2後		2			○		1	1					オムニバス	
理学療法研究法		4後	3				○		4	2		4			共同		
	小計(9科目)	—	9	4	0	—			4	2	0	4	0	兼4	—		
合計(154科目)			—	82	37	0	—		6	3	0	4	0	兼55	—		
学位又は称号	学士(理学療法学)	学位又は学科の分野				保健衛生学関係(リハビリテーション関係)											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
卒業要件 4年以上にわたり128単位以上の単位を取得 履修方法 総合教育科目から必修7単位、選択17単位以上を選択。専門教育科目の専門基礎から必修33単位、選択2単位以上を選択、理学療法専門から必修68単位、選択1単位以上を修得し、128単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:45単位(年間))						1学年の学期区分					2学期						
						1学期の授業期間					15週						
						1時限の授業時間					90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健医療学部 作業療法学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合教育科目	東洋医療の基礎・導入教育	1前	1					○			1	0	2	0	0	共同	
	科学的思考の基盤	科学の基礎	1前		1			○									兼2 オムニバス
		生命のしくみ	1前		2			○									兼1
		生命の化学	1前		2			○									兼1
		統計学の基礎	1前		2			○									兼1
		統計学の基礎	1後		1			○									兼1
		物質と自然のしくみ	1後		2			○									兼1
	情報科学	1後		2			○									兼1	
	小計（6科目）		—	0	10	0		—			0	0	0	0	0	兼6	—
	人間と生活	生命倫理	1後	2				○									兼1 オムニバス
		日本国憲法（法の基礎知識）	1前		2			○									兼1
		心理学	1前		2			○									兼1
		スポーツと健康	1前		2			○									兼1
		生涯スポーツⅠ	1前	1						○							兼1
		生涯スポーツⅡ	1後		1					○							兼1
社会学		1後		2			○									兼1	
社会福祉論		1後		2			○									兼1	
教育学		1前		2			○									兼1	
小計（9科目）		—	3	13	0		—			0	0	0	0	0	兼7	—	
言語とコミュニケーション	英語表現法Ⅰ	1前	1					○								兼1 共同	
	英語表現法Ⅱ	1後	1					○								兼1 共同	
	英語表現法Ⅲ	2前	1					○								兼1 共同	
	英語表現法Ⅳ	2後		1				○								兼1 共同	
	医療英語	2後		1				○		1						兼1	
	国語表現法	1前		1				○								兼1	
	コミュニケーション学	1前		1				○								兼1	
	手話	1後		1				○								兼3	
小計（8科目）		—	3	5	0		—		1	0	0	0	0	兼5	—		
専門教育科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造Ⅰ	1前	2				○			1						
		人体の構造Ⅱ	1後	1				○			1						
		人体の構造演習	1後	1						○		1	1			共同	
		人体の機能Ⅰ	1前	2				○								兼1	
		人体の機能Ⅱ	1後	1				○								兼1	
		人体の機能演習	1後	1						○						兼2 共同	
		基礎運動学Ⅰ	1後	1				○					1				
		基礎運動学Ⅱ	2前	1				○					1				
		基礎運動学演習	2前	1						○			2	2		共同	
		人間発達学	1前	2				○			1						
	小計（10科目）		—	13	0	0		—		2	0	2	2	0	兼2	—	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論	1前	2				○									兼1
		衛生・公衆衛生学Ⅰ	2前	1				○									兼1
		衛生・公衆衛生学Ⅱ	2後		1			○									兼1
		病因・病態学Ⅰ	2前	1				○									兼1
病因・病態学Ⅱ		2後	1				○									兼1	
臨床疾患学（内科）		2前	1				○									兼1	
臨床疾患学（外科）		2後	1				○									兼3 オムニバス	
整形外科学		2前	1				○									兼2 オムニバス	
神経内科学		2前	1				○									兼1	
臨床心理学概論		1後	1				○									兼1	
精神医学	2前	1				○									兼1		
画像解析学概論	3前	1				○									兼1		
加齢医学	2後	1				○									兼1		
薬理学の基礎	2前	1				○									兼1		
障がいとスポーツ	3前	1				○									兼2 オムニバス		
皮膚科・感覚機能医学	2後		1			○									兼2 オムニバス		
免疫学	3前		1			○									兼1		
栄養学の基礎	2前	1				○									兼1		
臨床生理学	3前		1			○									兼1		
医療統計	3前		1			○									兼1		
小計（20科目）		—	16	5	0		—		0	0	0	0	0	兼20	—		

	保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	1前	2			○								兼1			
		保健医療福祉概論	1後	2			○								兼1			
		小計(2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—		
専門教育科目	作業療法専門	基礎作業療法学	作業療法学概論	1前	2			○			1							
			作業療法理論	2前	2			○						1				
			基礎作業学	1後	1				○					1	1			共同
			日常生活活動学概論	2前	1				○					1				
			精神疾患とその障害	2後	1				○						1			
			小児期の疾患とその障害	2前	1				○								兼1	
			作業療法管理学	3後	1				○			2			2			
			動作解析学	2後	1					○					1			共同
			作業療法安全管理学	1後	1				○			1						
			作業療法総合ゼミ	4後	1					○		1		2	2			
			小計(10科目)	—	12	0	0	—			2		2	2	0	兼1	—	
		作業療法評価学	作業療法評価学総論	2前	1				○					1	1			
			身体障害作業療法評価学	2後	1				○					1	1			
精神障害作業療法評価学	2後		1				○						1					
発達障害作業療法評価学	2後		1				○			1								
老年期障害作業療法評価学	2後		1				○						1					
日常生活活動作業療法評価学	2後		1				○			1								
高次脳機能障害作業療法評価学	2後		1				○			1								
	小計(7科目)		—	7	0	0	—			3		2	2	0	0	—		
作業治療学	身体障害作業療法治療学	3前	1				○					1						
	身体障害作業療法治療学演習	3後	1					○				1	1			共同		
	精神障害作業療法治療学	3前	1				○						1					
	精神障害作業療法治療学演習	3後	1					○					1					
	発達障害作業療法治療学	3前	1				○			1								
	発達障害作業療法治療学演習	3後	1					○		1								
	老年期障害作業療法治療学	3前	1				○						1					
	老年期障害作業療法治療学演習	3後	1					○				1	1			共同		
	日常生活活動作業療法治療学	3前	1				○			1		1				共同		
	日常生活活動作業療法治療学演習	3後	1					○		1			1			共同		
	高次脳機能障害作業療法治療学	3前	1				○			1								
	高次脳機能障害作業療法治療学演習	3後	1					○		1		1				共同		
	内部障害作業療法治療学	3前	1				○					1						
	義肢・装具学	3後	1					○				1						
	リハビリテーション支援機器概論	3前	1				○			1			1					
	就学・就労支援概論	3前	1				○			1								
	セラピューティック・レクリエーション概論	3後	1					○				1						
認知行動療法	3後	1					○							兼1				
カウンセリング技法	2後	1					○							兼1				
	小計(19科目)	—	19	0	0	—			3	0	2	3	0	兼2	—			
地域作業療法学	地域作業療法学総論	3前	2				○						1					
	地域作業療法学各論	3後	2				○						1					
	小計(2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	1	0	0	—			
臨床実習	臨床実習Ⅰ(見学)	1後	1										2			共同		
	地域臨床実習	2前	1										2			共同		
	臨床実習Ⅱ(プレ評価)	3後	1									1	1			共同		
	臨床実習Ⅲ(評価)	3後	4									1	1			共同		
	臨床実習Ⅳ(総合)	4前	8							3		2	3			共同		
	臨床実習総合セミナー	4前	1					○				1	1			共同		
	臨床実習Ⅴ(総合)	4前	8							3		2	3			共同		
	小計(7科目)	—	24	0	0	—			3	0	2	3	0	0	—			

発展科目	表現思考型学習	1後		1			○		1									
	国際リハビリテーション学総論	2後		1			○		1					兼1			共同	
	国際リハビリテーション学各論	2後		2			○		1								共同	
	専門職連携概論	3後	1				○				1							
	芸術療法概論	3後		1			○											
	代替療法概論	3後		1			○		1									
	東洋医学概論	4後		1			○							兼1				
	キャリアサポートとワークライフバランス論	4後		1			○		1									
	作業科学概論	4後		1			○						1					
	英文献講読	3前		1				○		1								
	研究法入門	3前	1					○		1								
	研究法応用	4後		1				○		3		2	3					共同
小計（12科目）		—	2	11	0		—		3	0	2	3	0	兼2			—	
合計（113科目）		—	108	44	0		—		4	0	2	3	0	兼46			—	
学位又は称号	学士（作業療法学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（リハビリテーション関係）											
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
卒業要件 4年以上にわたり128単位以上の単位を取得 履修方法 総合教育科目から必修7単位、選択17単位以上を選択。専門教育科目の専門基礎から必修29単位、選択3単位以上を選択、作業療法専門から必修69単位、選択3単位以上を修得し、128単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位（年間）)							1学年の学期区分					2期						
							1学期の授業期間					15週						
							1時限の授業時間					90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部 臨床検査学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	東洋医療の基礎・導入教育	1前	1					○			1		2				
総合 教育 科目	科学的思考の 基盤	生命のしくみ	1前	2				○			1	1				オムニバス	
	物質と自然のしくみ	1後		2				○								兼1	
	生命の化学	1前	2					○								兼1	
	科学の基礎	1前		1				○		1							
	統計学の基礎	1前		1				○								兼1	
	情報科学	1後		2				○								兼1	
	小計 (6科目)	—	4	6	0					2	1					兼4	
	人間と生活	生命倫理	1後	2					○								兼1
	生涯スポーツ I	1前		1					○							兼2 共同	
	生涯スポーツ II	1後		1					○							兼2 共同	
	心理学	1前		2					○							兼1	
	日本国憲法 (法の基礎知識)	1前		2					○							兼1	
	スポーツと健康	1前		2					○							兼1	
	教育学	1前		2					○		1					兼1	
	社会学	1後		2					○							兼1	
	社会福祉論	1後		2					○							兼1	
	小計 (9科目)	—	2	14	0					2						兼8	
	言語と コミュニケー ション	英語表現法 I	1前	1					○								兼2 共同
	英語表現法 II	1後	1						○							兼1	
	国語表現法	1前		1					○							兼1	
	英語表現法 III	2前	1						○							兼2 共同	
英語表現法 IV	2後		1					○							兼2 共同		
中国語 I	2前		1					○							兼1		
中国語 II	2後		1					○							兼1		
医学英語	3前		2					○							兼1		
小計 (8科目)	—	3	6	0											兼6		
専門 教育 科目	基礎医学系	人体の構造 I	1前	1					○							兼1	
	人体の構造 II	1後	2						○						兼1		
	人体の構造実習	1後	1												兼1		
	人体の機能 I	1前	1						○		1						
	人体の機能 II	1後	2							1							
	人体の機能実習	1後	1							1					兼1 共同		
	生化学 I	1前	1						○			1					
	生化学 II	1後	2								1						
	病理学	1後	1													兼1	
	医用工学概論	1後	2													兼3 オムニバス	
	病理診断学	2前	2							1						兼1 オムニバス	
	分析化学	2前		2												兼1	
	医工情報学実習	2前	1										1				
	薬理学	3前	2													兼1	
	公衆衛生学	3前	2													兼1	
小計15科目	—	21	2	0					2	0	2	0	0		兼9		

専門教育科目	臨床検査学	臨床検査学の基礎	1前	2			○							1						兼1	オムニバス	
		臨床検査総論	1後	2			○															
		免疫検査学 I	1後	2			○			1												
		基礎微生物学	1後	1			○				1											
		血液検査学 I	2前	2			○			1												
		血液検査学 II	2後	2			○			1												
		生理機能検査学 I	2前	2			○				1											
		生理機能検査学 II	2前	2			○				1											
		生理機能検査学 III	2後	2			○														兼2	オムニバス
		生理機能検査学実習 I	2後	1					○		1										兼1	オムニバス
		臨床化学検査学 I	2前	2			○				1											
		臨床化学検査学 II	2後	2			○				1											
		臨床化学検査学実習	2後	1					○		1										兼1	オムニバス
		一般検査学	2前	2			○					1										
		一般検査学実習	2後	1					○			2										
		輸血・移植検査学 I	2後	2			○			1												
		免疫検査学 II	2前	1			○			1												
		微生物検査学 I	2前	2			○				1											
		微生物検査学 II	2後	2			○				1											
		病理検査学	2後	2			○														兼1	
		画像検査学	2後	2			○				1											
		遺伝子検査学	2前	2			○			1												
		遺伝子検査学実習	2後	1					○	1		1										共同
		医動物検査学	2後	1			○														兼1	
		臨床病態学 I	2前	2			○			1											兼2	オムニバス
		臨床病態学 II	2後	2			○														兼1	
		血液検査学実習	3前	1					○	2												共同
		生理機能検査学実習 II	3前	1					○		1										兼1	オムニバス
		輸血・移植検査学 II	3前	1			○			1												
		輸血・移植検査学実習	3前	1					○	1		1										共同
		免疫検査学実習	3前	1					○	2											兼1	共同
		微生物検査学実習	3前	2					○		1											
		病理検査学実習	3前	1					○	1		1									兼1	共同
		検査総合管理学	3前	2			○			1											兼5	オムニバス
		医療安全管理学	3前	2			○				1											
		関係法規	3後	1			○					1										
		総合検査技術演習	3前	1					○	1	1	2										共同
		臨地実習	3後	11					○	5	3	2										共同
		総合演習 I	4前	2					○	5	3	2										オムニバス
		総合演習 II	4後	2					○	5	3	2										オムニバス
		臨床検査学特論	4前	1			○			5	3	2										オムニバス
	小計41科目	-	59	16	0				5	3	2	0	0							兼14		
	細胞診断学	細胞診断学	3前	1			○		1													
		細胞診断学実習	3後	1				○	1											兼1	共同	
		細胞診断学特論 I	3後	3			○		1											兼8	オムニバス	
		細胞診断学特論 II	4通	3			○		1											兼1	オムニバス	
		細胞診断学特別実習 I	4通	3				○	1											兼5	オムニバス	
		細胞診断学特別実習 II	4通	3				○	1											兼8	オムニバス	
		細胞診断学特別実習 III	4通	3				○	1											兼1	オムニバス	
		細胞診断学特別実習 IV	4通	3				○	1											兼13	オムニバス	
		細胞診断学特別実習 V	4通	3				○	1											兼6	オムニバス	
	小計9科目	-	2	21	0				1	0	0	0	0							兼24		
	総合教育科目	医学概論	1前	2			○													兼1		
		食品栄養学	1後	2			○													兼1		
		食品管理学	3前	2			○													兼1		
		エキスパート検査学	4前	2			○		4	2	2										共同	
	小計4科目	-	4	4	0				4	3	2	0	0							兼2		
合計 (93科目)			-	96	43	0	-		6	3	2	0	0							兼66		
学位又は称号		学士 (保健衛生学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係														
卒業要件及び履修方法								授業期間等														
卒業要件 4年以上にわたり128単位以上の単位を取得 履修方法 総合教育科目から必修10単位、選択14単位以上を選択。 専門教育科目から必修86単位、選択18単位以上を選択。 (履修科目の登録の上限：47単位 (年間))								1 学年の学期区分			2 学期											
								1 学期の授業期間			15 週											
								1 時限の授業時間			90 分											

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育 科目	保健医療研究方法特論 I	<p>保健医療分野の知識基盤を発展させるため、研究成果を検証する研究方法について知識を深める。具体的には、教員自身が行っている研究を通して研究の具体的手法、研究倫理の遵守事項について講義する。加えて、院生各自の研究課題・疑問に応じて、文献検討により研究方法を構築する専門的能力を養う。この講義から専門教育科目、特別研究科目を履修するための知識・技術・倫理の基盤を築くことを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>① 鈴木俊明／3回 理学療法領域の評価及び治療法に関する神経生理学的研究方法について講義する。</p> <p>② 伊藤俊治／4回 鍼灸刺激のメカニズムにおける分子生物学的研究方法について講義する。</p> <p>③ 西 理宏／4回 糖尿病の病態に関する遺伝子分析研究方法について講義する。</p> <p>④ 深澤洋滋／4回 慢性疼痛と掻痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究方法について講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育 科目	保健医療研究方法特論Ⅱ	<p>保健医療分野における科学的実践活動及び研究で使用される主要な統計学的手法と解析法を取り上げ、データの収集方法、その信頼性、妥当性の検証など目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法について、文献での使用例の検討や演習を交えて講義する。複雑な保健科学現象を明らかにし、説明するための一連の手法を教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>② 伊藤俊治／3回 力学的刺激及び鍼灸刺激の分子生物学的手法を用いたデータの解析方法に関して講義する。</p> <p>④ 坂口俊二／6回 自律神経障害への鍼灸刺激が体温、血圧、皮膚温などの生体データの解析方法に関して講義する。</p> <p>⑦ 谷埜予士次／3回 理学療法評価及び治療法に関する神経生理学的・生体力学的研究データの解析方法に関して講義する。</p> <p>⑧ 深澤洋滋／3回 慢性疼痛と搔痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究データの解析方法に関して講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	保健医療科学基盤講義Ⅰ	<p>(概要) 保健医療分野で用いられている様々な理論, 概念に精通するための学問を深めるだけでなく、現在の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。この講義を通して、学際的な立場から研究活動を遂行することができる人材を養成することを目的とする。具体的には、血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究、臨床微生物学的検査の効率化に関する最新の理論, 知識を文献より情報収集し、まとめた成果を発表及びディスカッションを行うことで理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 竹田知広/5回) 血小板と免疫細胞のクロストークに関する最新理論と研究方法、血液凝固因子と免疫細胞のクロストークに関する最新理論と研究方法、免疫血栓に関する最新理論と研究方法について講義する。</p> <p>(⑩ 大瀧博文/5回) 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する研究の最新理論と方法論について講義する。</p> <p>(⑤ 竹田知広・⑩ 大瀧博文/5回) (共同) 院生による医科学領域の研究発表とディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	保健医療科学基盤講義Ⅱ	<p>(概要) 保健医療分野で用いられている様々な理論, 概念に精通するための学問を深めるだけでなく、現在の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。この講義を通して、学際的な立場から研究活動を遂行することができる人材を養成することを目的とする。具体的には、理学療法評価に関する生体力学的・神経生理学的研究に関する理論や方法論について講義および文献より情報収集し、まとめた成果を発表及びディスカッションを行うことで理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦ 谷埜予士次/5回) 理学療法評価の生体力学的研究に関する最新理論と方法論について講義する。</p> <p>(⑫ 文野住文/5回) 理学療法評価の神経生理学的研究に関する最新理論と方法論について講義する。</p> <p>(⑦ 谷埜予士次・⑫ 文野住文/5回) (共同) 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	保健医療科学基盤講義Ⅲ	<p>(概要) 保健医療分野で用いられている様々な理論, 概念に精通するための学問を深めるだけでなく、現在の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。この講義を通して、学際的な立場から研究活動を遂行することができる人材を養成することを目的とする。具体的には、鍼刺激が筋酸素動態及び自律神経機能に及ぼす研究に関する最新の理論, 知識を文献より情報収集し、まとめた成果を発表及びディスカッションを行うことで理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	保健医療科学実践演習Ⅰ	<p>(概要) 保健医療科学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療分野で用いられている様々な理論、概念を追求する研究の具体的な研究計画の立案、研究実施に向けた具体的な研究について演習を行う。具体的には、血液凝固系と免疫系のクロストークに関する研究、臨床微生物的検査の効率化に関する具体的な研究方法について演習する。院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表及びディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 竹田知広/5回) FCMデータ解析、凝固波形解析、画像解析、血小板機能解析に関する演習を行う。</p> <p>(⑩ 大瀧博文/5回) 臨床微生物学領域における検査法および薬剤耐性菌に関する具体的な研究の演習とデータ分析を行う。</p> <p>(⑤ 竹田知広・⑩ 大瀧博文/5回) (共同) 院生による医科学領域の研究発表とデータに関するディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	保健医療科学実践演習Ⅱ	<p>(概要) 保健医療科学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療分野で用いられている様々な理論、概念を追求する研究の具体的な研究計画の立案、研究実施に向けた具体的な研究について演習を行います。具体的には、理学療法評価に関する神経生理学的・生体力学的研究に関する具体的な研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦ 谷埜予士次/5回) 理学療法評価の生体力学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析を行う。</p> <p>(⑫ 文野住文/5回) 理学療法評価の神経生理学的研究に関する具体的な研究の演習とデータ分析を行う。</p> <p>(⑦ 谷埜予士次・⑫ 文野住文/5回) (共同) 院生による理学療法評価の生体力学・神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	保健医療科学実践演習Ⅲ	<p>(概要) 保健医療科学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療分野で用いられている様々な理論、概念を追求する研究の具体的な研究計画の立案、研究実施に向けた具体的な研究について演習を行います。具体的には、鍼刺激が筋酸素動態及び自律神経機能に及ぼす研究に関する具体的な研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を実践することでの工夫や問題点について確認する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ	<p>(概要) 保健医療学領域の各職種で用いている高度な専門技術で、将来的にも必要となる最新技術の開発に関して講義する。この講義を通して、保健医療学領域の各職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材を養成することを目的とする。具体的には、理学療法で用いられている運動イメージや運動観察の最新技術の神経生理学的理論、実際の技術の実践応用について最新の文献を用いてまとめ、ディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 鈴木俊明/5回) 運動観察を用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論について講義する。</p> <p>(① 鈴木俊明・⑬ 福本悠樹/5回) (共同) 運動イメージを用いた最新の治療法に関する最新理論と神経生理学的研究方法論について講義する。</p> <p>(① 鈴木俊明・⑬ 福本悠樹/5回) (共同) 院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法に関する神経生理学機能に及ぼす研究方法発表とディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ	<p>(概要) 保健医療学領域の各職種で用いている高度な専門技術で、将来的にも必要となる最新技術の開発に関して講義する。この講義を通して、保健医療学領域の各職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材を養成することを目的とする。具体的には、自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する評価法や最新技術の理論、実際の技術の実践応用について最新の文献を用いてまとめ、ディスカッションを行うことで理解を深める。</p>	
	保健医療技術開発学基盤講義Ⅲ	<p>(概要) 保健医療学領域の各職種で用いている高度な専門技術で、将来的にも必要となる最新技術の開発に関して講義する。この講義を通して、保健医療学領域の各職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材を養成することを目的とする。具体的には、具体的には、自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的理論、実際の技術の実践応用について最新の文献を用いてまとめ、ディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 坂口俊二/5回) 自律神経機能障害への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論を講義する。</p> <p>(⑥ 谷万喜子/5回) 神経疾患への鍼灸治療に関する最新理論と生理学的研究方法論を講義する。</p> <p>(④ 坂口俊二・⑥ 谷万喜子/5回) (共同) 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法に関する生理学的機能に及ぼす研究方法発表とディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	保健医療技術開発学実践演習Ⅰ	<p>(概要) 保健医療科学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療学領域の各職種の高度な専門技術で、将来的にも必要となる新たな技術開発に関する演習を行う。具体的には、理学療法で用いられている運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する具体的な神経生理学的研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表およびディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を实践することでの工夫や問題点について確認する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ① 鈴木俊明/5回 運動観察を用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析を行う。</p> <p>① 鈴木俊明・⑬ 福本悠樹/5回 (共同) 運動イメージを用いた最新の治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析を行う。</p> <p>① 鈴木俊明・⑬ 福本悠樹/5回 (共同) 院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法開発に関する神経生理学機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	保健医療技術開発学実践演習Ⅱ	<p>(概要) 保健医療科学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療学領域の各職種の高度な専門技術で、将来的にも必要となる新たな技術開発に関する演習を行う。具体的には、自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法開発に関する具体的な研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表及びディスカッションを実施する。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を实践することでの工夫や問題点について確認する。</p>	
	保健医療技術開発学実践演習Ⅲ	<p>(概要) 保健医療技術開発学基盤講義の知識を基盤とし、保健医療学領域の各職種の高度な専門技術で、将来的にも必要となる新たな技術開発に関する演習を行う。具体的には、自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的研究に関する具体的な研究方法について演習する。また、院生の研究内容に関連した文献を調べ、具体的な研究方法に関する発表及びディスカッションを実施します。次に、その研究方法に合わせた実際の研究を实践することでの工夫や問題点について確認する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ④ 坂口俊二/5回 自律神経機能障害への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析を行う。</p> <p>⑥ 谷万喜子/5回 神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する具体的な研究の演習とデータ分析を行う。</p> <p>④ 坂口俊二・⑥ 谷万喜子/5回 (共同) 院生による自律神経機能障害及び神経疾患への最新の鍼灸治療法開発に関する生理学的機能に及ぼす研究発表とデータに関するディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ	<p>（概要） 高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼として、本学附属保健医療施設や大学院が勤務している関連施設のご協力をいただき、学生の医療資格に関する最新の治療技術を学び実践可能なように演習を行う。この臨床演習を通して、更なる新しい治療技術の開発が可能になることが期待できる。具体的には、理学療法領域で用いられている運動イメージや運動観察の最新の治療法の臨床応用に関する臨床演習を行う。また、院生による運動イメージや運動観察の最新の治療法を用いた症例報告とディスカッションを行う。</p>	共同
専門教育科目	保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ	<p>（概要） 高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼として、本学附属保健医療施設や大学院が勤務している関連施設のご協力をいただき、学生の医療資格に関する最新の治療技術を学び実践可能なように演習を行う。この臨床演習を通して、更なる新しい治療技術の開発が可能になることが期待できる。具体的には、自閉スペクトラム症児の日常生活を支援する最新の評価法及び治療法の臨床応用に関する臨床演習を行う。</p>	
専門教育科目	保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ	<p>（概要） 高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼として、本学附属保健医療施設や大学院生が勤務している関連施設のご協力をいただき、学生の医療資格に関する最新の治療技術を学び実践可能なように演習を行う。この臨床演習を通して、更なる新しい治療技術の開発に寄与することが期待できる。具体的には、自律神経機能障害及び神経疾患への新しい鍼灸治療法の臨床応用に関する臨床演習を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>④ 坂口俊二／5回 自律神経機能障害に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習を行う。</p> <p>⑥ 谷万喜子／5回 神経疾患に対する最新の鍼灸治療法に関する臨床演習を行う。</p> <p>④ 坂口俊二・⑥ 谷万喜子／5回（共同） 院生による自律神経機能障害及び神経疾患の最新の鍼灸治療法を用いた症例報告とディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究 科目	特別研究 I	<p>(概要)</p> <p>1年次前期では、研究課題の概要を研究指導教員に提出し、その関連する論文を研究指導教員の指導で理解すると共に、1年次前期終了時点では研究計画の概要が決定できることを目的とする。1年次後期では、研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導を行うことで研究計画書を作成する。1年次後期終了時では研究計画を確定し、研究計画発表会を開催する。また、必要に応じて研究倫理審査委員会、動物実験センターへ研究倫理審査に関する書類を提出し、研究倫理に関する承認を得ることとする。</p> <p>(① 鈴木俊明) 運動イメージ、運動観察の臨床応用に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(② 伊藤俊治) 実験動物を使ったモデル研究、タンパク質動態解析、遺伝子発現の解析などに関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(③ 西 理宏) 糖尿病の遺伝子分析研究に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(④ 大歳太郎) 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑤ 坂口俊二) 自律神経障害への鍼灸刺激が体温、血圧、皮膚温などの生体データに関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑥ 竹田知広) 免疫細胞と凝固系因子およびアレルギー疾患の発症機序に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑦ 谷万喜子) 神経疾患に対する鍼治療で用いる経穴への鍼刺激が、筋機能及び神経機能にもたらす影響に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑧ 谷埜予士次) 身体運動学及び運動器疾患理学療法臨床応用に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑨ 深澤洋滋) 慢性疼痛と搔痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究における研究計画作成の指導および研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑩ 吉田直樹) 運動計測・運動制御、リハビリテーション機器に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑪ 大瀧博文) 臨床微生物的検査の効率化に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑫ 木村研一) 鍼灸刺激が筋酸素動態及び心拍数、血圧などの循環動態に及ぼす影響についての研究計画の立案、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑬ 文野住文) 運動イメージの神経生理学的検討に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p> <p>(⑭ 福本悠樹) 運動イメージ、または運動イメージを利用した運動学習効果に関する研究計画の指導、研究計画発表会への準備を行う。</p>	

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究 科目	特別研究Ⅱ	<p>（概要） 2年次前期では、研究計画発表会での指導の内容を取り入れながら、研究方法を修正し具体的な研究を開始する。得られた研究データは担当教員の指導を受けながらデータをまとめる。また、2年次後期では、研究結果の解釈を深めながら論文作成を進める。2年次の段階で論文を投稿できることを目標とする。</p> <p>① 鈴木俊明 運動イメージ、運動観察の臨床応用に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>② 伊藤俊治 実験動物を使ったモデル研究、タンパク質動態解析、遺伝子発現の解析などに関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>③ 西 理宏 糖尿病の遺伝子分析研究に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>④ 大歳太郎 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑤ 坂口俊二 自律神経障害への鍼灸刺激が体温、血圧、皮膚温などの生体データに関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑥ 竹田知広 免疫細胞と凝固系因子およびアレルギー疾患の発症機序に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑦ 谷万喜子 神経疾患に対する鍼治療で用いる経穴への鍼刺激が、筋機能及び神経機能にもたらす影響に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑧ 谷埜予士次 身体運動学及び運動器疾患理学療法臨床応用に関する研究方法論の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑨ 深澤洋滋 慢性疼痛と搔痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究の研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑩ 吉田直樹 運動計測・運動制御、リハビリテーション機器に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑪ 大瀧博文 臨床微生物的検査の効率化に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑫ 木村研一 鍼灸刺激が筋酸素動態及び心拍数、血圧などの循環動態に及ぼす影響についての研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑬ 文野住文 運動イメージの神経生理学的検討に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p> <p>⑭ 福本悠樹 運動イメージ、または運動イメージを利用した運動学習効果に関する研究方法の確立と具体的な研究実施、データ解析、論文作成を行う。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究 科目	特別研究Ⅲ	<p>（概要） 3年次では、投稿論文の査読への対応を行い、論文受理まで指導を行う。論文受理ののちに、公開発表会の準備を行う。</p> <p>（① 鈴木俊明） 運動イメージ、運動観察の臨床応用に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（② 伊藤俊治） 実験動物を使ったモデル研究、タンパク質動態解析、遺伝子発現の解析などに関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（③ 西 理宏） 糖尿病の遺伝子分析研究に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（④ 大歳太郎） 自閉スペクトラム症児に対する日常生活を支援する評価法や介入に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑤ 坂口俊二） 自律神経障害への鍼灸刺激が体温、血圧、皮膚温などの生体データに関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑥ 竹田知広） 免疫細胞と凝固系因子およびアレルギー疾患の発症機序に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑦ 谷万喜子） 神経疾患に対する鍼治療で用いる経穴への鍼刺激が、筋機能及び神経機能にもたらす影響に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑧ 谷埜予士次） 身体運動学及び運動器疾患理学療法臨床応用に関する研究論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑨ 深澤洋滋） 慢性疼痛と搔痒の分子基盤に関する分子生物学的、免疫組織化学的、行動薬理学的手法を用いた研究に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑩ 吉田直樹） 運動計測・運動制御、リハビリテーション機器に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑪ 大瀧博文） 臨床微生物的検査の効率化に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑫ 木村研一） 鍼灸刺激が筋酸素動態及び心拍数、血圧などの循環動態に及ぼす影響についての研究論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑬ 文野住文） 運動イメージの神経生理学的検討に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p> <p>（⑭ 福本悠樹） 運動イメージ、または運動イメージを利用した運動学習効果に関する論文の完成（論文受理）及び公開発表に向けた準備を行う。</p>	

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。